

“逆転の発想”で、薬学人の「倫理観」について考えてみよう！

オーガナイザー：有田 悦子（北里大学薬学部 教授）

中田 亜希子（東邦大学医学部 講師）

講師：石川さと子（慶應義塾大学薬学部 准教授）

亀井美和子（帝京平成大学薬学部 教授）

竹平 理恵子（北里大学薬学部 講師）

田村 豊（福山大学 教授）

薬剤師に求められる役割が“対物から対人へ”とシフトし、医療人としての倫理観が強く求められる様になりました。

薬学モデルコアカリキュラムの「基本的な資質」にも“医療の担い手としての倫理観”を6年かけて醸成することが明記されていますが、何をもって“倫理観”を評価するかは非常に難しい問題です。

そこで今回、倫理教育委員会では“倫理的でないパフォーマンス”について徹底的に考えるワークショップを企画しました。

「皆さんは、どんなパフォーマンスをする薬剤師なら倫理観がある！と評価しますか？」

薬学生への倫理教育に携わる方はもとより、現場の薬剤師の皆さんも是非ご参加ください！

略 歴

有田 悦子：博士（臨床薬学）北里大学薬学部 薬学教育研究センター医療心理学部門教授。北里大学薬学部を卒業後、患者心理と服薬効果をテーマに東京学芸大学大学院修了（教育学修士）。「薬学教育における新たなコミュニケーション教育プログラムの構築」にて学位授与。北里大学薬学部助手、講師、准教授を経て現職。臨床現場に還元できる薬学ヒューマニティ教育構築を目指し、“薬学人の心”を育てる教育・研究に励んでいる。

中田 亜希子：博士（医学）東邦大学医学部 医学教育センター 講師。東邦大学薬学部を卒業後、薬剤師として勤務。青山学院大学大学院（修士）、東京大学大学院（専門職修士）修了後、昭和大学薬学部助教を経て、東邦大学大学院医学研究科を修了し現職に至る。専門は生命倫理学、医学教育学。特に医療倫理、研究倫理の教育を大きなテーマとしている。

石川さと子：博士（薬学）慶應義塾大学薬学部 薬学教育研究センター准教授。共立薬科大学大学院修了後に助手、講師、慶應義塾大学薬学部専任講師を経て、現職に至る。専門領域は有機化学に加えて、ヒューマニティ関連科目、情報科学、関係法規など拡大中。現在は、化学が色々な領域につながることを学生に伝えながら、情報リテラシー教育、多職種連携教育、薬剤師の生涯学修について考えを巡らせる毎日を過ごしている。

亀井美和子：博士（薬学）帝京平成大学薬学部教授。日本大学理工学部薬学科卒業後、筑波大学大学院経営政策科学研究科修了（修士（経営学））。日本大学薬学部助手、専任講師を経て、2006年昭和大学薬学部教授、2010年日本大学薬学部教授、2020年より現職。医療の質改善に向けて薬剤師が職能を十分発揮できる環境を作り、根付かせたいという気持ちで研究に取り組んでいる。

竹平 理恵子：博士（薬学）北里大学薬学部 薬学教育研究センター医療心理学部門講師。津田塾大学学芸学部数学科卒業後、高等学校の専任教諭となる。その後、東邦大学薬学部に進学、同大学薬学研究科臨床コースを修了し、東邦大学医療センター佐倉病院に入職。2007年から城西国際大学、2016年から北里大学にて薬学教育に携わる。科学者かつ対人援助職である薬剤師育成のため、日々模索している。

田村豊：博士（薬学）福山大学薬学部教授。福山大学大学院薬学研究科修士課程を修了後、福山大学薬学部助手、講師、准教授を経て2010年から現職。基本的な専門は中枢神経薬理学であるが、2000年頃よりコミュニケーション教育にも興味を持ち「岡山 SP 研究会」でSPの研修を受ける。事前学習ではコミュニケーション教育を担当している。